



だより



R6.6.4 Vol.9

菜の花や 春風ただよう 冬の跡

5年の男の子が作った俳句です。教室を回っていたら、見せてくれました。二重季語ですが、その辺はご愛敬で…。その子に「どんな様子？」と問うてみると、「菜の花が咲いていて、春風がただよっているんです。でも、菜の花畑の向こう側はまだ枯れ木（新芽が出ていない木）が残っている感じですよ。」と答えてくれました。どこかで見た風景かもしれませんし、想像したものかもしれません。「僕！俳句作るの好きなんです！」と言っていました。自然の様子を捉えて俳句に表す感性。大事にしてやりたいなと思います。

感覚と概念

3年生の男の子とのおしゃべりです。「校長先生！ $1+1=?$ 」「もちろん！2」「違いま〜す！1です。」「え〜何でよ？」「だって、コップに半分の水が入ってるとするでしょ？半分と半分のコップ足しても水は1でしょ？」「え〜！そしたら $1+1+1+1$ も1になるやんか！」「そうですよ！半分の半分の水を4つたしても1になるでしょ？」

「え〜そしたら100回足しても何回足しても1やんか！」「そうですよ！（得意満面 校長先生に勝った!）」

もうお気づきですね。その子は分数の概念の話をしています。その学習はまだですので、何分の1という言葉にはなりません、感覚としてきちんと捉えています。この日常生活の中での感覚・概念を学習にいかにつなげるか、教師の腕の見せ所です。子供の中で、学校生活と日常生活が結びつく瞬間が学びの楽しさにつながります。

四方山話真穴 ver. 其の九(ゲームは子供にいい!?)

『スマホやゲームは育児に役に立つ!』そう言うてはばからぬ変人、いや友人が私にはいます。私が言うことに何かとイチャモンをつけ、困る私を見て喜ぶ、そんなかけがえのない友達です(笑)就学前の子供たちのパパでもあり、まさに絶賛！子育て中！その友人と少し話をする機会がありました。その時の会話を少々。「私』『友人』

「ゲームって子供に有害だと思わない?』『外を散歩しながらキャラをゲットするゲーム(仮にマサトンGO!としましょうか)に我が子はいろんなことを教えてもらってますよ。』『例えばどんなこと?』『文字、数字、時間や曜日の概念をマサトンGO!から学んでます。』『そのバーチャルな時間がリアルの時間を削っているとは思わない?』『まあ、ゲームにもよると思うけど、マサトンGO!はフィールドゲームなので、一緒に散歩しながら5キロくらい歩く運動になってますよ。その時間が私との時間にもなってるし、当然、私のスマホなので、私のいない時にはできないので管理もできてますよ。』…この後しばらくやり取りは続きました。友人の言うことにも一理あると思います。

ただ教員としては、「どんどんやりなさい!」とおすすめはできません(汗)いろんなケースや子供たちを見てきたり、書籍にあたりたりする中で、学童期までの段階ではメリットよりデメリットが多いと感じるからです。しかし友人のような使い方否定することはできないと思うのです。何が正解!なんて誰にも分からない。友人との話は子供の習い事にも及びました。私も子供の頃、そろばんを習ってました。(昭和感満載ですね。)確かに飛躍的に計算能力は上がりました。2桁くらいまでの掛け算なら暗算で出来ていました。それが当時は役立つ能力だったのかもしれませんが、今はその能力はまさにA1の十八番です。一例ではありますが、時代とともに役立つ能力もまた変わっていきます。(もちろん、そろばんをおくことで私の脳へのいい刺激があったかもしれません。)そういえば、幼児期の子供への先行投資は将来のハイリターンにつながるという研究もあるようです。が、習い事に行かせている時間が、もし親子の触れ合いをたっぷりとれる時間だったら、愛着形成においては、はるかにいいのかもしれない。ほんと、何がいいのか悩みますよね。子育てに悩むのは、我が子をより良く育てたいという親の願望からだと思えます。でも、そこに、「他人と比べて」という感情は入ってないでしょうか?それが悪いというわけではありません。ただ、そこだけを目指すのではなく、どんな子に育てたいか?他人と比べるのではなく我が子がどうなってほしいか。その視点も大事なのかなあと自分の子やらいを反省しながら思う今日この頃です。